

令和4年度 新卒看護師教育研修スケジュール

目的：かわさき記念病院の概要を理解し認知症を持つ患者の看護実践につなぐことができる。

- 目標： 1) 認知症疾患の病態生理，検査，治療，予後について理解できる。
 2) 厚労省より提示された「看護技術項目」に基づいた看護技術の習得ができる。
 3) 認知症疾患患者の精神状態をアセスメントし，日常生活に影響を与える要因を抽出できる。
 4) 認知症疾患患者の心身の状況に適した看護技術の提供ができる。
 5) 認知症疾患患者の看護実践をまとめ発表ができる。

	技術項目	内容
4 月	症状生体機能管理 ・バイタルサインが正確に測定できる ・患者の一般状態の変化に気付くことができる ・バイタルサイン、身体測定データ、症状等から患者の状態をアセスメントできる	バイタルサイン測定 フィジカルアセスメント (胸部・腹部・脳神経)
	環境調整 ・患者にとって快適な病床環境を造ることができる ・基本的なベッドメイキングができる ・臥床患者のリネン交換ができる	ベッドメイキング、リネン交換
	排泄援助 ・自然な排尿排便を促すための援助ができる ・患者に合わせた便器尿器を選択し排泄援助ができる ・ポータブルトイレでの患者の排泄援助ができる ・患者のオムツ交換が出来る ・失禁している患者のケアができる	オムツ交換、陰部洗浄 尿器・ポータブルトイレの使用方法
	創傷管理 ・患者の褥瘡発生の危険をアセスメント出来る。	褥瘡の病態生理、 評価方法、 当院での書類作成
	与薬 ・経皮・外用薬の投与前後の観察ができる ・経皮・外用薬の与薬方法がわかる	外用薬・貼付剤 外用薬投与 点眼薬、点鼻薬、 吸入器使用の吸入方法
	当院における薬剤について（向精神薬の取り扱い）	
	清潔、衣生活援助 ・入浴が生体に及ぼす影響を理解し、入浴前・中・後の観察ができる ・清拭援助を通して患者の観察が出来る ・洗髪援助を通して、患者の観察ができる ・患者が身だしなみを整えるための援助ができる ・入浴介助ができる ・臥床患者の清拭ができる	全身清拭、洗髪、入浴介助 機械浴の取り扱い方、 脱衣、更衣
	症状、生体機能管理 ・目的に合わせた採尿の方法を理解し、尿検体の正しい取り扱いができる ・モデル人形で静脈採血が実施できる ・血液検査の目的を理解し、目的に合わせた血液検体の取り扱い方が分かる 感染予防 ・針刺し事故防止の対策が実施出来る ・針刺し事故後の感染防止の方法が分かる	静脈採血方法 検体の取り扱い

	技術項目	内容
4 月	与薬 <ul style="list-style-type: none"> ・経口薬（パッカ錠・内服薬・舌下錠）の服薬後の観察ができる ・経口薬の種類と服薬方法が分かる ・患者を誤認しないための防止策を実施できる ・誤薬防止の手順に沿った与薬ができる ・人体へのリスクの大きい薬剤の暴露の危険性および予防策が分かる 	与薬演習
	ナースコール、ベッドセンサーの取り扱い方	
	フォーカスチャータリング	
	高齢者の摂食・嚥下	講義、食事援助
	清潔、衣生活援助 <ul style="list-style-type: none"> ・口腔ケアを通して患者の観察ができる ・意識障害のない患者の口腔ケアができる 	口腔ケア演習
	<ul style="list-style-type: none"> ・電子カルテにて看護記録を行う ・口腔ケアの患者の状況を実際に記録する ・食事介助時の患者の状況を実際に記録する 	電子カルテにて看護記録の実際
5 月	食事援助 <ul style="list-style-type: none"> ・患者の栄養状態をアセスメントできる 当院の食事栄養について <ul style="list-style-type: none"> ・常食～治療食、1日カロリー栄養素 ・補助食品の種類と特徴、適応する患者 ・経管栄養の種類と内容 ・入院時評価尺度（MNA-SF, GLIM） ・NSTラウンド 	講義
	転倒・転落防止 <ul style="list-style-type: none"> ・転倒・転落発生時の対応 ・頭部打撲後の観察チェック ・転倒転落スコアシート ・転倒転落アセスメントスコアシート 	講義 電子カルテでの確認
	創傷管理 <ul style="list-style-type: none"> ・頭部打撲時の観察の実際と対応 ・大腿骨頸部骨折時の観察の実際と対応 ・皮膚剥離時の処置 	演習
	窒息時の対応 <ul style="list-style-type: none"> ・認知症患者と窒息 ・窒息時の対応 	講義・演習
	アンガーマネジメント	
	看護技術受講の振り返り	
	創傷管理 <ul style="list-style-type: none"> ・褥瘡予防のためのケアが計画出来る 	褥瘡ケア、 栄養面でのアプローチ
	1ヵ月フォローアップ研修	自己の振り返り
呼吸循環を整える <ul style="list-style-type: none"> ・呼吸器系フィジカルアセスメント 	呼吸器系フィジカルアセスメントの実際	

	技術項目	内容
5月	呼吸循環を整える <ul style="list-style-type: none"> ・モデル人形で、口腔内・鼻腔内吸引が実施出来る ・モデル人形で、気管内吸引が出来る ・モデル人形で体位ドレナージを実施出来る ・気管内吸引時の観察点分かる 	吸引 (気管内、口腔内、鼻腔内)
6月	排泄援助 <ul style="list-style-type: none"> ・モデル人形にグリセリン浣腸が出来る ・直腸内与薬の投与時間の観察が出来る ・モデル人形に直腸内与薬が実施出来る 	直腸内与薬 浣腸
	排泄援助 <ul style="list-style-type: none"> ・基本的な排便の方法、実施上の留意点分かる ・ストーマを造設した患者の一般的な生活上の留意点分かる 	排便 ストーマケア
7月	創傷管理 <ul style="list-style-type: none"> ・褥瘡予防のためのケアが実施出来る ・患者の創傷の観察が出来る ・失禁をしている患者の皮膚粘膜の保護が分かる 	創部処置演習
	排泄援助 <ul style="list-style-type: none"> ・膀胱留置カテーテルを挿入している患者の観察が出来る ・膀胱留置カテーテルを挿入している患者のカテーテル固定、カテーテル管理、感染予防の管理が出来る ・モデル人形に導尿又は膀胱留置カテーテルの挿入が出来る ・無菌操作が確実に出来る 	導尿、膀胱留置カテーテル、 残尿測定 無菌操作
	呼吸循環を整える <ul style="list-style-type: none"> ・酸素吸入療法を受けている患者の観察が出来る ・酸素吸入療法が実施出来る ・気管内加湿が出来る ・酸素ポンベの操作が出来る ・酸素の危険性を確認し安全管理の必要性が分かる 	酸素吸入 ネブライザー 酸素ポンベ取り扱い
	食事援助 <ul style="list-style-type: none"> ・電解質データの基準値からの逸脱が解る ・経管栄養を受けている患者の観察が出来る ・患者に対して、経鼻胃チューブからの流動食の注入が出来る 	経管栄養
8月	3か月フォローアップ	3か月間の振り返り
	糖尿病を持つ人の看護	糖尿病の管理 治療 薬剤など インスリンの種類と 用法 副作用
	呼吸・循環障害を持つ人の看護 <ul style="list-style-type: none"> ・循環機能のアセスメントの視点が分かる 	
	呼吸循環を整える <ul style="list-style-type: none"> ・輸液ポンプの基本的な操作が出来る 	心電図モニター 人工呼吸器管理 12誘導心電図の装着管理 輸液ポンプ、 シリンジポンプの準備管理
	与薬 <ul style="list-style-type: none"> ・モデル人形で皮下注射が出来る ・モデル人形で筋肉注射が出来る ・皮下注射後の観察点分かる ・筋肉内注射後の観察点分かる 	皮下、筋肉注射 薬剤の管理方法

	技術項目	内容
8月	与薬 <ul style="list-style-type: none"> ・点滴静脈内注射をうけている患者の観察点分かる ・点滴静脈内注射の輸液の管理が出来る ・モデル人形に点滴静脈内注射が実施出来る ・静脈内注射後の観察点分かる ・薬理作用を踏まえた静脈内注射の危険性が分かる ・静脈内注射実施中の異常な状態が分かる ・抗生物質を投与されている患者の観察点分かる ・薬剤等の管理（毒薬・劇薬・麻薬・血液製剤を含む）方法が分かる 	静脈ルート確保 点滴、皮下点滴、輸液管理、 生食ロック
	症状生体機能管理 <ul style="list-style-type: none"> ・簡易血糖検査が出来る 与薬 <ul style="list-style-type: none"> ・インシュリン製剤の種類に応じた投与方法が分かる ・インシュリン製剤を投与されている患者の観察点分かる 	簡易血統検査 インシュリン投与技術
9月	6か月フォローアップ研修	
10月	救命救急処置 <ul style="list-style-type: none"> ・緊急な事が生じた場合にはチームメンバーへの応援要請が出来る。 ・患者の意識状態を観察出来る ・モデル人形で気管確保が正しく出来る ・モデル人形で人工呼吸が正しく実施出来る ・モデル人形で閉鎖式心マッサージが正しく実施出来る ・除細動の原理が分かりモデル人形にAEDを用いて正しく実施出来る ・意識レベルの把握方法が分かる 	BLS,急変時対応
	精神保健福祉法	
	隔離・拘束を受ける患者の看護 その1 <ul style="list-style-type: none"> ・身体拘束ガイドライン 日本看護倫理学会 ・身体拘束, 倫理的ジレンマ ・身体拘束の三原則 	
	隔離・拘束を受ける患者の看護 その2 <ul style="list-style-type: none"> ・拘束帯設置 ・隔離室使用時の患者の観察 ・隔離室使用時の患者安全管理 ・拘束帯使用時の患者の観察 ・拘束帯使用時の患者の安全管理 電子カルテの記載 「6か月の自分の姿」発表	演習
11月	ケーススタディについて	プリセプティとプリセプター参加
	看取りの看護	
	死後の処置	
	9か月フォローアップ研修	
12月	認知症患者のケア	
	ユマニチュード	実技を含む
3月	ケーススタディ発表会	
	1年フォローアップ研修	

4月 入職1週目

○1日目○

- ・ 病院案内
- ・ 看護部の理念
- ・ 社会人、組織人、看護職としての心構え 認知症ケアの概要
- ・ 接遇、挨拶、電話の応対
- ・ 看護部各部署・委員会紹介
- ・ 電子カルテ操作
- ・ 新人看護師教育プログラムの説明

○2日目○

- ・ 看護と倫理
- ・ 精神保健福祉法
- ・ 看護記録の概要
- ・ 他部署の紹介

○3日目○

- ・ 認知症疾患を持つ患者の感染対策と発生時の対応
- ・ 認知症を持つ人の看護
- ・ 高齢者看護
- ・ 医療安全対策について

○4日目○

- ・ 当院の感染対策と感染チーム活動、昨年度の発生事象とその対応
- ・ スタンダードプリコーション、手指衛生必要な防護用具の取り扱い
- ・ 当院における医療安全対策 看護の安全性と医療事故防止
- ・ 認知症診断に関わる心理検査と評価
- ・ ケアメソッドについて